

説教要旨 <ルカによる福音書 22 章 31~34 節>

この箇所は、主イエスの 12 人の弟子のうちで一番年長者と思われるペトロに対して、主イエスが捕えられるということがペトロの信仰に大きな危機を招くということを予想して警告しておられる箇所です。

「だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(32 節)。

ペトロの信仰に大きな動揺がくるということを主イエスは見抜いておられるが、そのことをペトロ自身は気がついていないのです。

それをあらかじめ知っていて、わたしたちのために警告し、またその時のために助ける道を設けていてくださる方がキリストです。

ペトロの陥る状態を、すでに予想して、そして主イエスはペトロのために祈ると言っておられます。「だから、あなたは立ち直ったら」(32 節)。

聖書がいう「立ち直り」とか「立ち帰り」ということは、もう一つの意味があります。それは、「立ち直り」「立ち帰り」とは「悔い改める」ということです。主イエスがペトロに「立ち直って」と言われたことは、ペトロに「悔い改め」を期待し、「悔い改め」を求めておられる。そして、悔い改めることが出来るペトロということの主イエスは胸中に持っておられたということです。

ペトロに主イエスが求められたことは、「立ち直れ」すなわち、「悔い改めなさい」ということです。そして「兄弟たちを力づけてやりなさい」。ところがペトロにはそれが分からなかった。それが「主よ、ご一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。ところが主イエスは、ペトロが知っている以上に、ペトロを知っておられる。「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう」(34 節)。

それでは、このペトロは結局どうなったのか、ということをヨハネによる福音書の 21 章で見てください。15 節に「食事が終ると、イエスはシモン・ペトロに、『ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか』と言われた。」この出来事との間に主イエスの十字架の出来事があります。と同時にそのそばでペトロが、主イエスが言われたように、わたしはこの人を知らない。わたしはこの人と関係がない、と言って主イエスを否認する出来事があったその後です。

復活された主が、ペトロに会われた時に、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」。わたしを愛しているかということばが、ここでは三度問いかけています。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます(17 節)。「主よ、あなたは何もかもご存じです」。こうペトロが言っています。ペトロはこの状態に陥りながら、主イエスは彼に悔い改めを与え、立ち直らせられたのです。(帆足主基夫)